

ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局：大代地区公民館 ☎364-8442

災害対策の心構え

第六分団長 桜田 栄松

そろそろ巷から、師走の音が聞かれるようになり、今日この頃、大代地区の皆さまにはお変わりなくお過ごしのことと思います。日頃消防団活動にご理解、ご協力いただき深く感謝を申し上げます。さて、今年の夏、きびしい暑さ、残暑が続きました。そして台風、集中豪雨、さらには地震とたび重なる自然災害で大きな被害を受けた所もございます。当地に於いても台風の直撃からのがれられました。八月十六日のあの大きな揺れがありました。幸い被害も少なくすみました。

しかしあの地震は想定外と云うことで、まだまだ大きい地震が必ず来ると覚悟しなければなりません。皆様方におかれましては地震対策はどうでしょうか。家具等の倒壊防止策など、家庭で出来る事は早めに済ませておきましょう。いざ、とつさの場合、我が身の安全は我が身で確保しなければなりません。そして家族の安全の確認、火の安全、防ぎようのない自然災害等、日頃の備え、心がけによりそれが被害を最小限に食い止めることが出来、尊い命を守ることが出来るのだと思います。又、これから風の吹く日が多くなり火災の心配される時期が参りました。十一月九日から一週間秋の災害予防運動が展開され、当分団でも九日、十二日、

あいさつは心のふれあい 出会った人と あいさつしましょう

十五日と広報を流し注意を呼びかけました。十一月二十七日には行事として八幡小学校のプールを利用し遠距離中継放水訓練に参加しました。

これからの季節は空気が乾燥し火災の起きやすい気象状態がづづきます。どうか皆さん、これから日一日と寒くなり暖房器具や火の取り扱いが多くなります。枯れ草、落ち葉などのたき火、たばこの吸い殻のポイ捨てなどちよつとした不注意が大きな火災にもつながりますので十分気をつけましょう。

いまだつけ火、放火の割合が多いと云うことですので燃えやすい物は早めに片付けて道路沿いの軒下など人目に付きやすい所には努めておかないようにし、必ず朝出しするように。又日頃から外出時やお休み前にもう一度家庭内の火の元をチェックする習慣もつけていただきたいものです。

皆さん一人一人が火災の怖さをいつも忘れずに用心を心がけるようお願いいたします。これからも明るく安全で誰もが住みやすい街作りのため団員一同努めてまいりますので、皆さんのご協力よろしくお願いいたします。

自主防災



お年賀



【新年を祝う会】

開催のお知らせ

コミュニティ推進協議会

会長 佐藤 甚六

平成十八年「新年を祝う会」を

左記のとおり開催致します。多数の皆様のご参加を賜りますようお願い申し上げます。

記

一日時 平成十八年一月八日(日)

十一時〜十三時

二場所 大代地区公民館

三会費 千五百円

四参加申込み

詳細は、回覧文書をご覧下さい。

五申込み締め切り日

平成十七年十二月十七日(土)

六祝宴アトラクション

レーザカラオケを用意いたします。

出演希望者で、カラオケ専用テープが必要な方はご持参下さい。

なお八時三十分より会場準備を行いますので、関係者の方はご協力をお願いいたします。

子ども映画会 (無料)

日時/十二月十七日(土)

午後一時三十分〜二時三十分

場所/大代地区公民館二階会議室

対象/児童及び小学生(親子可)

(当日、直接大代地区公民館へお出で下さい。)

歴史講座(受講料無料)

日時/十二月八日(木)

午前十時〜十一時三十分

場所/大代地区公民館二階会議室

対象/一般市民

(山茶花大学と合同講座)

内容/多賀城の歴史等について

講師/教育部埋蔵文化財課長

申込/山茶花大学受講生以外の方は

十二月七日(水)まで直接または電話で大代地区公民館へ

俳句

大代西 松浦 富男

淵紅葉水に彩なす浄土かな

疎まれて強か生きる泡立草

松茸の紙より薄き土瓶むし

錦繡の溪底奔る舟下り

魚棲めぬ火口湖蒼く秋澄みぬ

笠神西 本郷 勝子

コスモスや薄紅色の君が好き

鈴虫の亡骸かたしそぞろ寒

陽を受けて凜とたたむ石路の花

実の照も朝陽を浴びて藪柑子

柀や香りのどかなよき日和

ご祝儀 お見舞いは 三千元を限度にし お返し物はしなないようにお互い気を配りましょう

夢の帰国(東京ダモイ) 三十八

大代南 後藤 清一

此処ナホトカに集結して久しい。

待てど暮らせど「ダモイ」の気配な

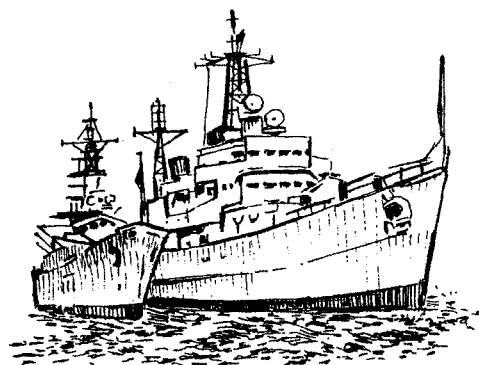
ど全くない。労働と民主教育は相変わらず熾烈なものでした。短い夏、秋も過ぎれば丘の樹々も全て落葉し、外はすでに降雪・凍結し、やがて恐ろしい冬がやってくる。一九一七年十一月八日、レーニンがロシア革命に成功した日とか、ソ連ではこの日を革命記念日と称し仕事は休みお祝いする。我々抑留者もお相伴に預かり休みとなるがそれ以外の特赦は全くない。此の日の午後、政治部員から本日十五時を以って君達第十五梯団を総て帰国させる。詳細は各分団長より伝える。以上だ。皆は突発な帰還の伝達に度肝を抜かれる。中には奇声をあげ涙を流して走り廻る者、腰を抜かし放心状態の者、その表現は様々。どの顔も異様に變形して見えた。失張りレーニン記念日の特赦か、騙さないでくれ、皆で手を合わせ祈る。やがて屋外に整列、所持品の検査である。こんな検査何度も受けたが、その都度めぼしい物は没収され誰も私物など持っていない。貴重品はおろかたばこのケース、ズボンのベルトまで巻き上げられて仕舞う。眼下に見下ろすナホトカの港、日本海が鮮やかな海原で砂浜の向こうに広がっていた。港内の片隅に黒煙を吐き白く大きな船体に赤

十字のマークが鮮やか。病院船高砂丸である。船は岸壁に横付になった。やとと俺達が乗る船なのだ。乗船を目前にしながら亡くなった友、そして全シベリヤの地に眠る霊に、最後の別れです、安らかに眠れと手を合わせる。やがてタラップが降ろされ乗船が開始される。タラップを踏む前、又しても名簿の検認である。こんな所で乗船を拒まれては叶わない。通過した者は一気にかけて登る。俺だって無事通過だ。私にはタラップが長い距離に感ぜられた。船と岸壁の間には見えない国境がある、今その国境を越えるのかと思うと足が震えた。

一步一步踏みしめる感触を確かめながら途中で呼び戻されるのではないかと云う不安と、もう大丈夫なのだと言う思いで歩を運んだ。

俺は本当に生きて帰れるのだ。自然に涙が出てくる。一瞬故郷の顔が脳裡を横切った。

続く



私の中の戦時中

大代南 星 繁子

今年の夏も暑かった。本年は終戦六十周年の節目の年でマスメディアでも盛んに戦争時の報道があった。そんな中私も六十年前の八月十五日の暑い夏の日を思い出しました。当時私は田舎の女子学校の四年生で朝登校すると今日は重大放送があるので全校生徒講堂に集まる様にとの事で何があるのか分からぬままに冷房設備もない講堂で汗を流しながら待機していた、しばらくするとラジオが持ち込まれ昭和天皇の「耐えがたきを耐え忍びがたきを忍び…」と玉音放送が流れると内容は理解できなかつたが戦争に負けたのではと直感した。居並ぶ先生方と云つても若い先生は皆兵隊に召集され兵役をのがれた年寄りの先生と女の先生だけの体制だった。それがポロポロ涙を流し泣いていた。それを見た私達生徒も本当に戦争に負けたと実感すると急に体の力が抜けて皆床に伏して泣いた。

純真に「国を思い勝つまでは頑張りますしう。」を合言葉に上級生は軍需工場に。私達下級生は学校に残り食糧不足を補うため兵隊さんの指導を受けながら山を開墾し食糧の増産に励んだ。空腹を抱えながら開墾地までの行軍になれない作業で倒れる人も居た、着る物もなく食べる物も少して成長期の私達には、とてもつらく苦しかった。

夜になると燈火管制と云い電灯に黒い布でカバーし暗い光の下でささやかに勉強もし、今考えると我ながらげんげに思われる。あれから六十年すつかり世の中も変わり私も七十才を過ぎ今までは物があふれるばかり、物の有り難さが全く分らない、食品はあり過ぎ生活習慣病等と私も含めとんでもない事になつてゐる。毎月発行される「ふれあい」に掲載されるシベリヤ物語でも戦争で心ならずも外地に渡り異国で命を落とされた方々、そのご家族又国内でも恐ろしい原爆・空襲等また沖縄で自決した白百合部隊の女学生も私と同じ年代でとても悲しい苦しい時代だった。

そんな犠牲の上の幸せなのだからもつと生活を大切に子供を愛し家庭を愛し地域を愛し良い日本であれば犠牲になられた人々もうかばれると思えます。世界何処の国にも戦争はいりません。

ふれあい川柳

大代西 藤田 遊子

初めての質問の出来「卓月賞」

会議よりトクシヨウが好きな一年生

嵐去り舌を出して金四郎

ブレーキの効かないトラック永田町

改革は逝けよ逝けよと老い急かす